いちはらフィールドマップ

市原

総距離　約2.4km（移動時間のみで約72分）

上総国府推定地

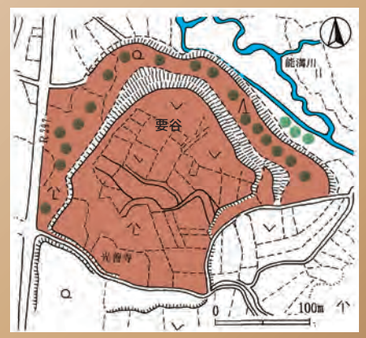
光善寺周辺では、国分寺造営以前に導入された平城京系の古瓦が発見されるほか、大型の掘立柱建物跡も見つかっており、国府と深く関わる役所や寺の重要施設があったと考えられています。

光善寺廃寺出土の軒丸瓦

創建期瓦（7 世紀末）

平城京系瓦（8 世紀中頃）

五所四反田遺跡



市原城の縄張り図

姥神社

廻国供養塔（光善寺前）

柳楯を調製する司家

柳楯が古代道を行く

馬頭観音像（山木）

至辰巳台

阿須波神社 万葉歌碑

光善寺石灯籠

光善寺（昭和 29 年）

六十六部廻国行者

IC-04 古代道路跡

館山道や五所小学校の建設工事前に発掘調査したところ、両側に溝を持つ古代道路跡が見つかりました。当時、都とすべての国府は官道で結ばれ、途中には駅家が置かれました。古代道路跡は市原台地上でも確認されていますが、阿須波神社周辺には江戸道と呼ばれる小路もあることから、重要な街道であり続けていたことがわかります。柳楯神事では、この古代道近くを通り五所へ向かいます。

IC-05 光善寺

光善寺薬師堂には室町時代の薬師三尊像が安置され、県内最古の石灯篭（15世紀前半の応永期、市指定）など、中世の足跡を今に伝えます。境内は「光善寺廃寺」と呼ばれる遺跡で、古瓦の出土により、国分寺以前の国府寺院とする説があります。また境内に置かれた影向石（麦飯石）には、行基の説法を聞きに八幡神が降臨したとの伝説があり、柳楯神事の発祥に関わるとされています。

IC-06 市原城跡

江戸時代に成立した軍記物『関八州古戦録』に、北条氏が里見氏を攻めた際、市原城主忍(芦野)丹波守の舎弟民部少輔が里見方についたと記載されていますが、詳細はわかっていません。城の範囲も市原台地突端部を想定する説や、字要谷周囲に限定する説等があります。市原市でも一部を発掘調査したところ、多くの人骨等が出土し、戦国時代の闘いの様子などがわかりました。

IC-07 庚申塔

庚申塔とは、干支でいう庚申の夜に宿に集まって夜を明かすという庚申信仰に基づいた石造物です。庚申の夜に、人が寝ると体内から三尸（さんし）という虫が天帝に日頃の罪を報告しに行くとされ、寝ずに夜を明かした方が良いという道教の教えから、室町時代以降全国に拡がりました。ここには萬治4年（1661）の銘と、「見ざる・言わざる・聞かざる」として三猿が彫られています。

見学される皆様へ

★歴史遺産は、郷土の歴史文化を伝えてくれるかけがえのない財産です。個人所有物であったり、私有地に置かれている場合もありますので、マナーを守って見学しましょう。
★駐車場は基本的にありませんので、公共交通機関を利用しましょう。路上駐車や無断駐車は厳禁です。
★社寺の境内や墓地は、信仰の対象です。行事が行われていたりする場合もあるので、迷惑にならないように行動しましょう。
★ゴミは必ず持ち帰ってください。
★他人の家や社寺など建物の中に、無断で入らないようにしましょう。
★見学の際は、所有者の許可を得るのが基本です。特に団体で見学されるような場合は、事前に了承をとるようにしてください。
★保存や管理の都合上、公開日が決まっていたり、見学ができない場合もあります。事前に確認して、公開日に見学しましょう。

いちはらフィールドマップ
制作・発行：市原市教育委員会
市原歴史博物館　〒290-0011　千葉県市原市能満 1489 番地　Tel.0436-41-9000　Fax.0436-42-0133
令和３年３月　第１版第１刷発行

I'Museum Field

市原

600年の時を継ぐ柳楯神事が伝わる歴史ロマンあふれる市原エリア。台地の突端に位置するこの地は、行基伝説や多くの石造物が伝わり、古代から多くの人が行き交う市原発祥の地です。また有力な上総国府推定地としても注目されています。

I'Museum

IC-01 宝積寺

現在は木更津市の曹洞宗眞如寺末ですが、寺伝では延元年間（1336~1340）に足利基氏の開基と伝わる古刹で、初め「寶幢寺」と称して臨済宗でした。寺紋は「丸に二引き両」いう足利氏の紋を持っています。敷地内には、嘉永3年（1850）に月出の宮大工藤右衛門によって建てられた山門や、元禄4年造立の石造千手観音立像など、この地域の歴史を語る歴史遺産を多く見ることができます。

IC-02 八幡神社

市原市市原1番地にあり、祭神は誉田別尊（ほんだわけのみこと）、神社創立は不詳ながら、「惣社八幡宮」であったとも伝えられ、飯香岡八幡宮と密接な関係にあるとされます。柳楯神事では、当地の司家（つかさけ）が調製した柳楯が八幡宮に到着しなければ、神輿の渡御式典が始められないしきたりになっています。境内末社には八坂神社があり、祭神に牛頭天王が祀られています。

IC-03 阿須波神社

祭神である阿須波神（あすはのかみ）は、「延喜式神明帳」では宮中守護の神とされ、井戸をつかさどる神と考えられています。
境内には、「庭中の阿須波の神に小柴さし吾は斎（いわ）はむ帰り来までに」と九州に出向く防人が、無事に帰れることを阿須波の神に祈って詠んだ歌を刻んだ万葉歌碑があります。「柳楯神事」では道中の安全を祈願した後、推定古代道を五所に向かいます。